

産業分野の事業紹介

1. 事業の背景

(株)日立ソリューションズ東日本(以下、HSEと記す)は産業分野の製造業を中心に、意思決定に関するソリューションを幅広く提供している。

製造業は2013年以降、国内外の景気回復などを受けて業績は回復しているが、2015年は円安方向への動きが一段落し、世界経済の減速などから一進一退の状況がみられる。¹⁾

また近年、海外の製造業を中心に付加価値が「もの」そのものからサービスやソリューションへ移り、単に「もの」を作るだけでは生き残れない時代に突入している。²⁾ IoT や第4次産業革命によるデジタル化の波の中で、各国はすでにビジネスモデルの変革を通じて、新たな価値の創出を図る取組に軸足を移し始めている。

一方、国内に関しては、産業界全体でIoTをどのように推進していくのか、企業を超えて検討をしていく団体が複数立ち上がり、議論が進められている。また、製造業現場でIoTの現状を知るために行われた経済産業省実施のアンケート調査によると、経営課題に対する取組に積極的な企業はIoTの活用についても積極的な姿勢がみられ、業績や投資に対しても前向きな見通しを持っている。経営課題と向き合い、その解決を図る企業ほど、解決策の1つとしてIoT などについても活用し、業績面で

成果をあげているといえる。³⁾

今後ますます市場のニーズが短ライフサイクル化・グローバル化し、市場にプレーヤーが増加する中で、日本の製造業が勝ち残るためには、IoTなどを活用し、サービスやソリューションに目を向け、新しい付加価値を顧客に提供することが重要になってきている。

2. 事業の方向性

企業が付加価値を生むためのバリューチェーン（開発・製造・販売・サービスなどの一連の流れ）の中で、HSEは特にサプライチェーンマネジメント（SCM）、エンジニアリングチェーンマネジメント（ECM）、ビジネスアナリティクス（BA）の3分野で、計画、可視化、分析、意思決定支援のソリューションを提供している。各分野の主なソリューション・製品を図1に示す。

今後はこれらの分野に引き続き注力するとともに、大きな潮流となったクラウド、ビッグデータ、グローバル、IoTに対応しながら、意思決定支援技術の高度化を図り、ソリューションの適用領域を拡大する。

3. 今後の事業展開戦略

前章で述べた3分野のソリューション・製品について、今後の事業展開戦略は次のとおりである。



図1 産業分野の主なソリューション・製品

3.1 SCM分野

HSEの得意とする需要予測（需要計画）、供給計画対応のソリューションに対し、その両領域をつなぐ需給計画ソリューションの提供を新たに開始した。SynCAS 3.0, Smoothie等の提供により、HSEならびに日立グループ全体としてのSCM分野の事業の強化と拡大を狙う。製品毎の主な戦略は以下のとおりである。

- ターゲット（SynCAS 3.0は卸売り全般・小売り全般・保守部品部門、Smoothieは海外販社全般・ホビー用品・スポーツ用品メーカー）と導入手順を定め、パッケージと導入支援サービスとで事業を拡大する。（SynCAS 3.0, Smoothie）
- 国外も含めて販売パートナーの支援メニューを拡充し、間接販売を加速させる。（SynCAS PSI Visualizer）
- 得意領域（プロセス製造、自動車、食品、医薬など）を持つアライアンス先との協業を強化する。また、製品を導入済みの顧客企業に対しては、別部門や他工場への横展開を図る。（SynPIX, SynPLA）

3.2 ECM分野

ECM分野では、設計・開発・製造工程での日程・リソース調整を行う工程管理ソリューションと、各業務プロセスで発生する業務データや成果物を一体化して蓄積・管理し、業務プロセスを効率化するためのソリューションを提供している。ソリューション毎の主な戦略は以下のとおりである。

- 自動車（電気・機械分野）の設計・量産準備の工程管理、工事・施工分野の日程・要員計画を主なターゲット領域として、販売パートナーとともに販売の拡大を図る。（SynViz S2）
- 製品情報管理・案件情報管理といったソリューション導入パターンをテンプレート化して販売の拡大を図る。また、日立グループの既存製品との連携による業種特化ソリューションを早期に立ち上げる。（AppSQUARE）
- テキスト解析部分のAPI化により他製品との連携を一層強化し、HSE製品の競争力をアップする。（CoreExplorer）

なお、これらの製品は汎用性が高く、製造業のECM分野以外にも、様々な業種・業界分野で導入されている。

3.3 BA分野

BA 分野についても、製造業に限らず公共・金融・サービスなど様々な業界に対して製品（Cognos, SPSS,

MicroStrategy など）やソリューション（ロケーションインテリジェンス、予算管理クラウド、など）の提供、システム開発、データウェアハウス（DWH）の構築を行っている。さらに、大量データの DWH・分析の用途で使用するアナリティクスアプライアンス製品（ある目的に特化して、すぐに使える家電製品のようなコンセプトで作られた製品）である IBM PureData System for Analytics (Netezza)を提供している。

また、製造業の設計・生産準備プロセスで行われている試行錯誤や量産時の不良品発生の課題について、IoT/M2M データを分析することで解決するために、製造業の生産技術部門向けソリューション「品質予測分析と自動化（PQAA）」の提供を開始した。PQAA は以下の3要素で構成されている。

- HSEの200社を超えるデータ分析支援から学んだ、分析のフレームワーク
- データ分析業務を速やかに立ち上げ、定着化するためのデータ分析支援サービス
- 予測分析ツール（SPSS Modeler / Modeler Server）と予測の自動化・分析モデルの資産管理のための関連製品（SPSS Collaboration and Deployment Service）

以上のように今後も各分野で培った技術・ノウハウ・人材を融合し、顧客企業の経営資源の最大化と意思決定の迅速化、そして企業が新しい付加価値をその先の顧客にサービスやソリューションとして提供できるよう、事業を推進する。

参考文献

- 1) 経済産業省，厚生労働省，文部科学省：2016年版ものづくり白書 第1部第1章第1節「我が国製造業の足下の状況認識」項番1「我が国製造業の業績改善」p.3(2016.5)
- 2) 経済産業省，厚生労働省，文部科学省：2016年版ものづくり白書 第1部第1章第3節「市場の変化に応じて経営革新を進め始めた製造企業」p.112-116(2016.5)
- 3) 経済産業省，厚生労働省，文部科学省：2016年版ものづくり白書 第1部第1章第1節「我が国製造業の足下の状況認識」項番3「第4次産業革命に対応する日本企業の状況」p.21-28(2016.5)